



校報 あずまね

<https://shiwa3.chu.jp>

時間囃嘩

文責 佐藤智一

燦々と輝く春へと向かう三中生



3月3日は桃の節句。雛人形を飾られた家もあることと思います。雛人形は、子どもたちの代わりに病気や事故から守ってくれるとされています。そのため、女の子が元気で幸せになるようにお祝いやの気持ちや願いを込めて飾ります。雛あられの色にも意味があって、ピンクは生命、白は雪の大地、緑は木々の芽吹きを表していて、この3色の雛あられを食べることで、自然のエネルギーを得て元気で丈夫に育つとされています。

オーストラリアへの海外派遣出発まであと3日、公立高校一般入試まであと3週間になりました。毎朝早起きして、栄養バランスの良い食事を摂り、昼間にしっかり活動し、夜は早く寝て、大事な日まで健康を保ち、その日を元気に迎えられるよう、ご家庭の支えをよろしくをお願いします。

受験日の朝の出来事

公立高校一般入試の日の朝、その生徒は盛岡農業高校を受験するため、時間に余裕を持ってバス停に到着し、盛岡方面に行く路線バスに乗りました。しかしそのバスは何と、国号から外れて高速道路に入ってしまったのです。その生徒は、一本早く来た違う路線のバスに乗ってしまったことに気がづきました。

その生徒は一人思索し、まずは学校へ連絡しなければと考えました。でも、受験生は受験会場への携帯電話の持ち込みが禁止されているので、電話は持っていません。しかも、バスは高速道路に入ってしまったので、インターチェンジを出るまでは公衆電話に向かうこともできません。

そこでその生徒はどうしたか？ そうです！ 近くの人に助けを求めたのです！！

「私は西根中学校3年生です。今朝、受験で盛岡農業高校に行こうとして、乗るバスを間違えてしまいました。このことを学校に連絡したいので、携帯電話を貸してくれませんか？」

そう隣の席の方に頼むと、すぐにその方は電話を貸してくれました。その電話を受けて、学校でもすぐさま対応をみんなで考えました。そして、そのバスの運航ルートを確認し、生徒に降りるバス停を伝えて、降りたらその場で待機するように伝えました。高校にもこの状況を伝え、遅刻するかもしれないことを連絡しました。

その間、バスの中でも周りの乗客たちによる対策会議が開かれていました。電話を切った後、普段からそのバスに

乗って通勤している方が、どのバス停で降りて、盛岡農業高校方面へ向かう路線のバス停まで移動すればよいことを教えてくれた上、「自分が道案内するから」と申し出てくれました。

生徒はそのことを再度学校に電話し、その方に次のバス停まで案内してもらって受験会場に向かうことを伝えてきました。電話を代わってもらい、学校からも同乗者の皆さんにお礼をするとともに、受験会場に待機している教員にもそのことを伝えて、何とか無事に会場に到着することを祈りました。その結果、当初の集合時刻には間に合わなかったものの、その生徒は遅刻することなく会場に到着して受験に臨み、念願の合格を果たしました。それが7年前の受験の日に、実際に起きた出来事です。

一人の受験生を何とか会場に送り届けるため、そこに居合わせた人たちが知恵と力を合わせて急場を乗り越えさせてくれました。これは、その生徒が困った時に人に助けを求めたからこそ、実現した出来事です。きっと、日頃から自分で考え判断し行動することを大事にしていた生徒だから実行出来たことだと思います。それともう一つ、その生徒が時間に余裕を持って会場に向かっていたからこそ、何とか間に合ったのだと思います。普段から時間ギリギリに、あるいは時間が過ぎてから行動するような人だったら、こうはならなかったでしょう。

いざという時に困難を乗り越える力の源は、きっと日常の自分の心がけにあることを、生徒に学んだ出来事でした。